News Release

【発信】国立大学法人
富山大学総務部総務・広報課
(TEL)076-445-6028
(FAX)076-445-6063

平成 30 年８月８日

報 道 機 関　各位

第９回「人文知」コレギウム

「フランスと日本～それぞれの過去から学ぶこと～」

富山大学人文学部は、学部教員による研究会「人文知」コレギウムを定期的に開催しております。富山県の「人文知」の拠点として、人文研究のさらなる高みを目指して、様々な分野の教員が集い、相互に研究交流を図ります（※「コレギウム」は「仲間たちの集い」という意味）。

来る９月５日（水）はその第９回目となります。テーマは，「フランスと日本～それぞれの過去から学ぶこと～」です。発表は，「フランス右翼ナショナリズムの論理構造―Ch.モラスが設定したふたつの「敵」」（南祐三［西洋史］），「宇治十帖前半とアンドレ・ジッド『狭き門』」（田村俊介［日本文学］）です（詳細については，別添チラシをご参照ください）。

なお，本研究会は、一般の方や学生の聴講も可能です。聴講は無料です。事前申込は不要ですが，ウェブから聴講を申し込むこともできます。

（http://www.diversitylounge.jp/collegium/postmail.html）。

つきましては、当日の取材・報道方、よろしくお取り計らい願います。

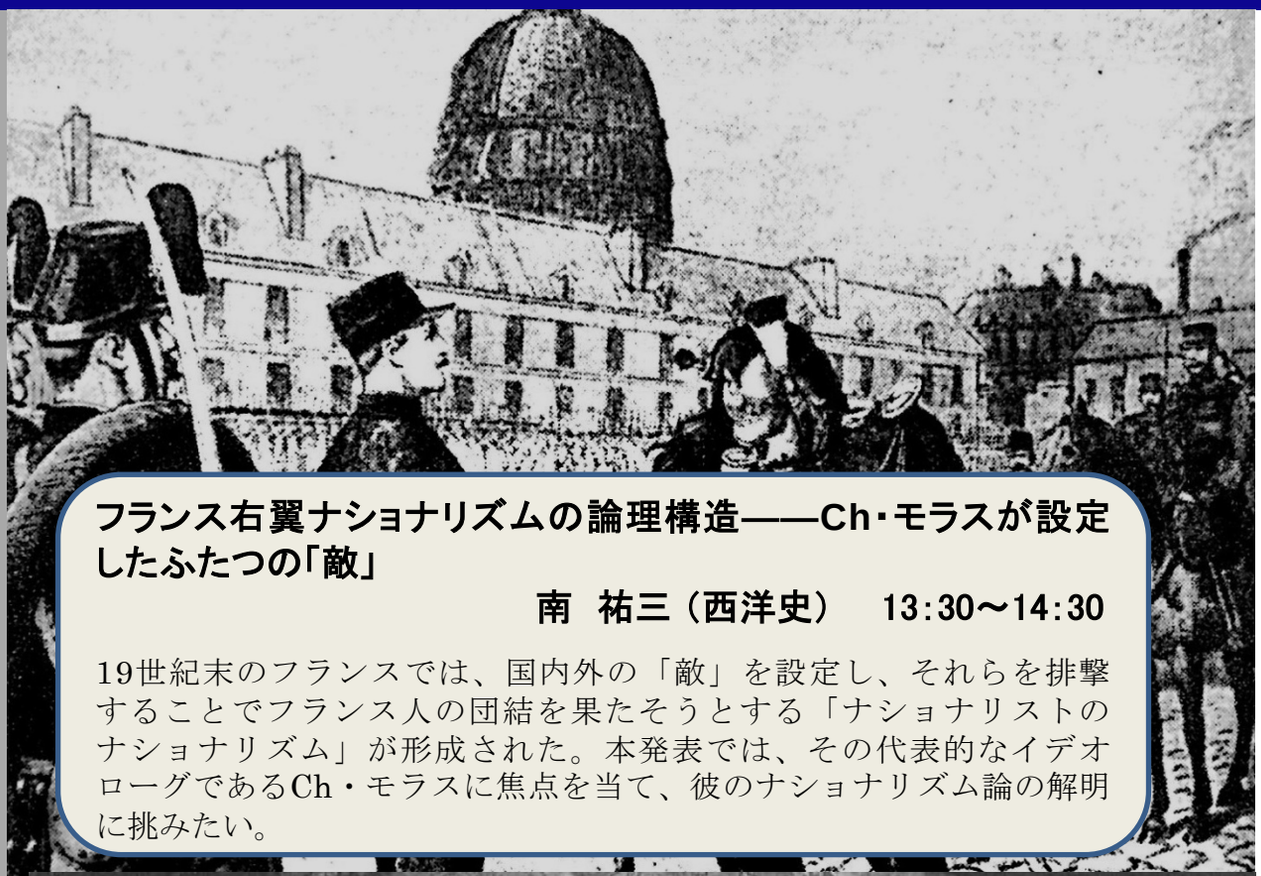
【本件に関する問い合せ先】
富山大学　人文学部総務課
TEL. 076-445-6131

富山大学人文学部富山循環型「人文知」研究プロジェクト公開研究交流会

第9回「人文知」コレギウム

一般の方の聴講歓迎・事前申し込み不要・無料

フランスと日本
～それぞれの過去から学ぶこと～



フランス右翼ナショナリズムの論理構造――Ch・モラスが設定したふたつの「敵」

南　祐三（西洋史）　13:30～14:30

19世紀末のフランスでは、国内外の「敵」を設定し、それらを排撃することでフランス人の団結を果たそうとする「ナショナリストのナショナリズム」が形成された。本発表では、その代表的なイデオローグであるCh・モラスに焦点を当て、彼のナショナリズム論の解明に挑みたい。

宇治十帖前半とアンドレ・ジッド『狭き門』

田村俊介（日本文学）　14:30～15:30

宇治十帖前半と『狭き門』はストーリーが酷似している（島津久基氏）。作品の主題に普遍性があるからだろう。両者の類似性をOeuvres complètes d'André Gide（NRF社, 1932-1939年）所収本で確かめつつ、宇治十帖前半と『狭き門』の女主人公の性格の違いも指摘したい。

2018年9月5日（水）13:30～15:30
富山大学人文学部1階大会議室

お問い合わせ　富山大学人社系総務課（人文担当）Tel 076-445-6131　Fax 076-445-6141